

平成23年度広島市立広島特別支援学校第3回学校協力者会議概要

1 日 時 平成24年3月6日(火) 10:00~11:30

2 場 所 広島特別支援学校 校長室

3 内 容

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委員長挨拶
- (3) 配付資料確認
- (4) 協議

ア 学校の現状についての説明(学校長)

- (ア) 学校経営計画最終評価
- (イ) 高等部第3学年進路希望状況
- (ウ) 保護者アンケート結果
- (エ) 平成24年度学校経営計画
- (オ) 平成24年度高等部入学者選考志願者数等

イ 移転・開校に向けての進捗状況(学校長)

ウ 移転・開校並びに創立30周年記念事業について(学校長)

エ 意見交換、提言等

- PDCAサイクルの原点として各種計画の見直しを図った。個別の教育支援計画、個別の指導計画等を早めに保護者に提示して説明できた。計画的に教育活動を展開するシステムが出来上がってきている。更に有効な活用を目指したい。

教員のキャリア教育への意識が高まってきている。来年度の移転・開校とともに学習指導要領の改訂に伴い、新教育課程を編成した。幅広い障害実態やニーズに対応するために来年度は試行と検証を慎重に進めて、更に児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成をしていきたい。

- 74名の高等部第3学年全員が、希望する進路先を保障するにはデイサービス(生活介護)や施設・作業所の絶対数が不足している。企業就労においては15名が希望して13名が決定した。キャリア教育に視点を置いた着実な指導で「働く力」は確実に付いてきているが、働く力があっても企業就労にチャレンジできなかった生徒が何人か見られた。保護者の協力も得ながら働く意欲をどう育てていくかが課題である。
- 学校経営計画は、教員の取組内容が具体的に書かれていてどんな取組を行っていて、どんな取組をしていくのかがよく分かるが、児童生徒のどのような変容を目指すのかを含めて、児童生徒の立場での記述の方がよいのではないかな。
- 震災、津波等を想定して、防災計画の見直しを図ることが必要である。
- 発達検査等を実施した際には、その結果と分析、指導方法を分かりやすく保護者に説明する必要があるのではないかな。
- アンケートの設問が評価する上で妥当な設問内容でなかったり、基準が曖昧で主観的であるためにどんな状態が達成されたといえるのか判断しにくかったりしないように注意してアンケートをする必要がある。また、データ結果に有意性があるかどうかを的確に判断した上で分析しなければ間違った評価をしてしまうことになる。さらに、最も的確にデータを分析できるのは5段階評価である。アンケートの見直しが必要ではないかな。
- 来年度は移転・開校を見据え、「分かる授業づくり」と「センター的機能」が大きな柱となる。専門性の向上を絶えず目指して質の高い教育を実現していきたい。児童生徒が意欲的に、生き生きと取り組む授業づくりと、学校の中の構造化や分かりやすいサイン表示等により、主体的に活動できる教育環境を整備したい。また、市内、県内の特別支援教育をリードし、絶えず情報発信していく存在にならなければならない。教職員一体となって取り組みたい。教育相談主任、JSTの配属にも力を入れて要望している。
- 地域社会に開かれた学校づくりの観点から「地域」との結び付きについても力を入れてほしい。地域での懇談会や地域活動推進事業の活用、各区の民生委員や社会福祉協議会との連携をとりながら進めていくことが大切である。

- (5) 委員長挨拶
- (6) 学校長挨拶